【 2 】

氏名	三 宅 良 昌
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 248 号
学位授与の日付	昭和43年３月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 （学位規則第５条第１項該当）
学位論文題目	**先天股脱股関節造影の分類**
論文審査委員	教授 児玉俊夫　教授 砂田輝武　教授 田中早苗

学位論文内容の要旨

先天股脱の非観血的治療法による治療成績は良好となっているが，必ずしも全ての症例に満足な治療効果を得ているわけではない。これは，乳幼児の股関節の大部分が軟骨性であるために，単純レ線撮影では，その詳細の解読が難かしいためである。そこで，著者は昭和39年４月より昭和42年３月の間に，50例81股関節造影を行ない，合理的な治療を確立しようとこゝろみた。その結果，先天股脱の股関節造影像は，軟骨性臼蓋嘴の状態により，臼蓋底閉塞型，軟骨性臼蓋嘴介在型，軟骨性臼蓋嘴中間位型，軟骨性臼盍嘴外反型，正常の５型に分類されること。また，脱臼股関節の軟骨性臼蓋嘴は内反して馬蹄状となり，その馬蹄部を寛骨臼横靱帯が強く締めつけ，この２つが一緒になって，内反というよりはむしろ〝絞扼〟といった状態となって，非観血的整復術に対する整復障害因子となっていることがわかった。

（昭和42年９月中部日本整形外科災害外科学会雑誌第10巻第３号に掲載）

論文審査の結果の要旨

本研究は先天性股関節脱臼の早期診断と早期治療法の決定のために関節造影法を行なったもので，手術所見と対比したところに価値がある。そして従来見逃されていた寛骨臼下部の横走靱帯が，脱臼の整復に重要な関係のあることを見出した価値ある業績と認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。